

太平中学校・平方東小学校校舎等配置計画（案）

令和8年 月
上尾市教育委員会

I. 基本的な考え方について

- 1. 上尾市の計画方針 1
- 2. 計画の方向性 1
- 3. 施設整備のキーワード 2

II. 現状と課題

- 1. 現状 3～5
- 2. 課題 6

III. 検討過程

- 1. 学校運営協議会 7
- 2. アンケートの実施 7

IV. 配置計画

- 1. 配置の特徴 8
- 2. 配置計画 8～10
- 3. 配置計画検討資料 11～19

V. 2回目アンケート（配置計画アンケート）回答概要

- 1. アンケートの概要 20
- 2. 回答概要 21

VI. 比較検討表

- 配置比較検討 22～24

VII. 事業スケジュール

- 1. 整備スケジュール 25
-

I. 基本的な考え方について

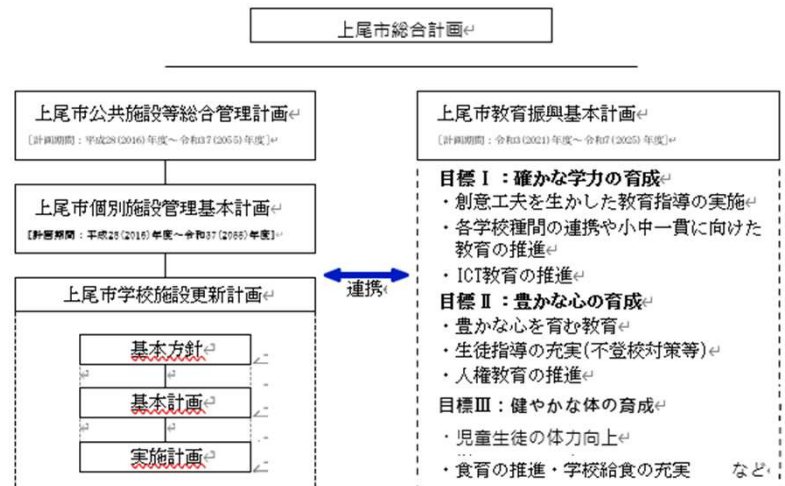
1. 上尾市の計画方針

「上尾市学校施設更新計画基本計画」は、「持続可能な教育環境づくり」を基本理念に掲げ、老朽化する学校施設を計画的に更新し、「新しい時代の学びにふさわしい学校」の実現を目指すための計画です。

本計画の推進にあたっては、「上尾市教育振興基本計画※」と連携しながら、「上尾市学校施設更新計画実施計画」に基づき、学校施設の更新に取り組んでいます。

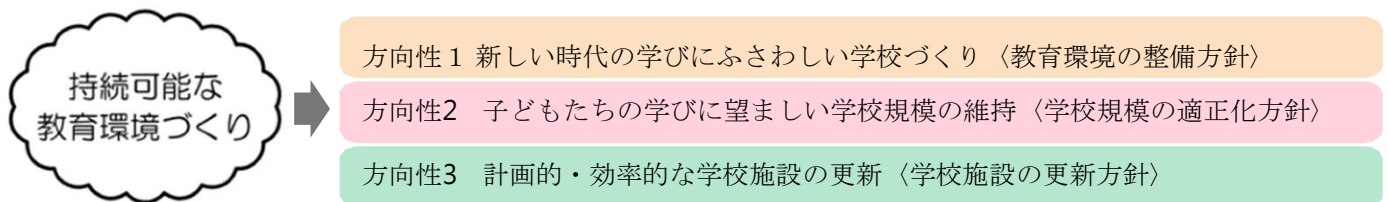
※ 教育基本法第17条第2項に基づき、教育の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、地方公共団体が策定する計画

- ソフト面：教育内容の充実、いじめ対策、家庭や地域との連携強化 など
- ハード面：学校施設の整備、ICT環境の整備 快適な学習環境づくり など



2. 計画の方向性

学校施設更新計画では「持続可能な教育環境づくり」の実現を図るために3つの方向性を掲げております。



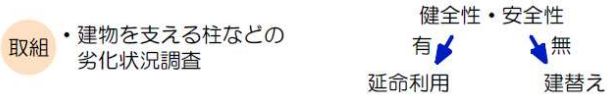
I. 基本的な考え方について

3. 施設整備のキーワード

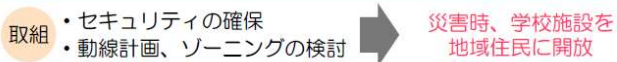
配置計画の際には、どの計画もこの4つのキーワードを軸に検討をおこなっております。

安全・安心な学校

①学校施設の更新による安全・安心な教育環境の確保



②避難所としての学校施設の活用



安全・安心な教育環境、地域コミュニティの拠点（イメージ）

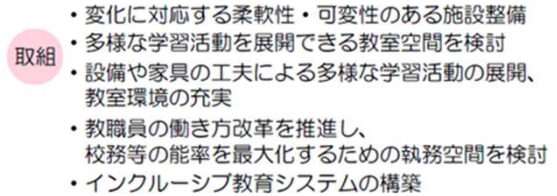


地域の避難所としての防災機能の強化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

新しい学びに対応した学校

①新しい学びに対応した教育環境・設備を備えた学校への改築

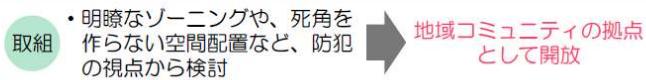


多様な学習活動を展開できる教室空間（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

地域に開かれた学校

①学校と地域が連携・協働していくための空間整備



②地域コミュニティ拠点となる施設の複合化



木材を利用し温かみのあるリビング空間（イメージ）

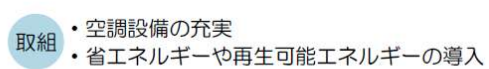


多様な活動ができる空調設備のある体育館（イメージ）

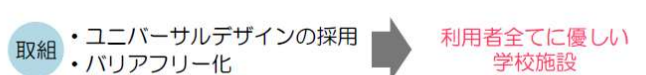
出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

快適な学校

①空調設備の充実や脱炭素社会の実現に向けた環境整備



②学校を利用する全ての人に配慮した環境整備



太陽光発電設備を導入し環境教育に活用（イメージ）



学校施設の木質化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

Ⅱ. 現状と課題

1. 現状

(1) 既存校舎の概要

既存の建物について、太平中学校、平方東小学校ともに、以下の表のように主に管理諸室や教室として利用している建物と体育館は、建築後50年を超えており、老朽化が進行している状況です。

【太平中学校】

太平中学校は、一部を除き、別棟となっており、昭和44年に木造校舎から鉄筋コンクリート造の校舎へ建て替えし、昭和50年から昭和57年にかけて、生徒数の増加により教室棟を増築しています。また、平成1年に格技場、平成4年に給食室の整備を行うなど、時代に合わせて施設整備を実施しているため、建物ごとの建築年数が異なります。

太平中学校				
建物名	構造	延床面積	建築年度	築年数
管理・南校舎東	RC	2132	S44	57
北校舎	RC	2619	S50・S53	51・48
南校舎西	RC	1426	S57	44
体育館	RC+S	762	S46	55
渡り廊下	RC	231	S50・H4	51・34
格技場	S	432	H1	37
給食室	RC	167	S50・H4	51・34

※構造欄の「RC」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造を示す。

※着色部分(桃色)は建築年数40年以上の建物を示す。

【平方東小学校】

平方東小学校は、一体の建物となっており、団地の開発と合わせて昭和49年に建設され、昭和51年に児童数の増加により既存建物と一体となる形で教室を増築しています。

平方東小学校				
建物名	構造	延床面積	建築年度	築年数
特別教室・体育館	RC+S	1482	S49	52
北校舎西	RC	2455	S49	52
管理・南校舎	RC	2207	S49	52
北校舎東	RC	846	S51	50
給食室	RC	167	S51	50

※構造欄の「RC」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造を示す。

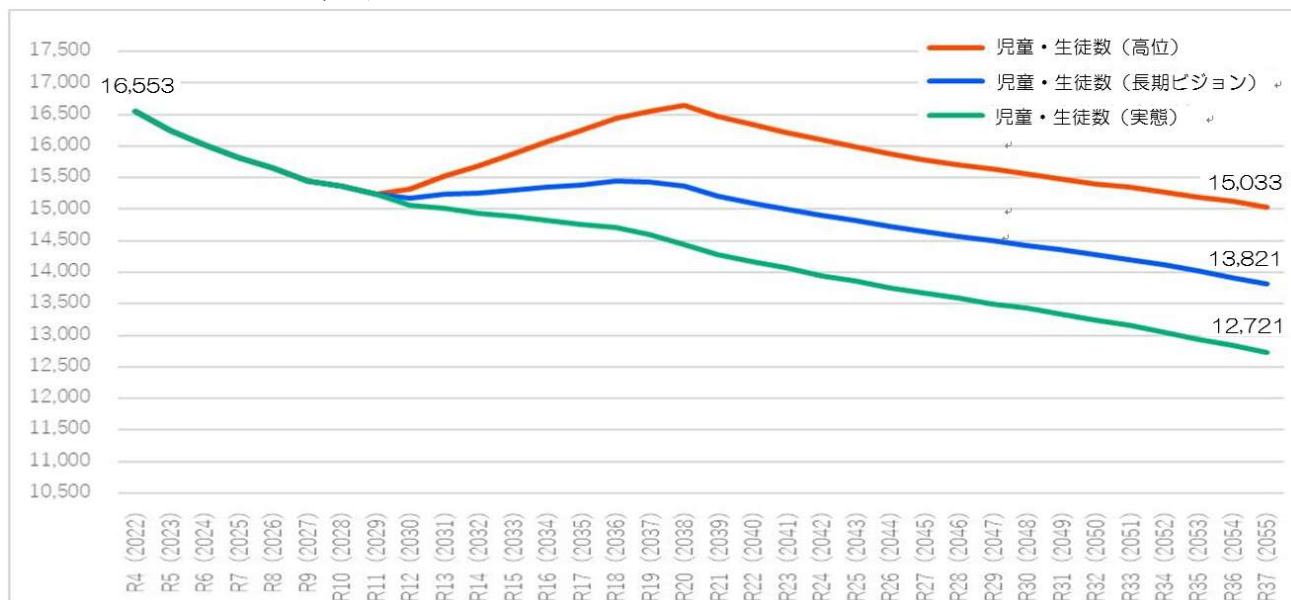
※着色部分(桃色)は建築年数40年以上の建物を示す。

Ⅱ. 現状と課題

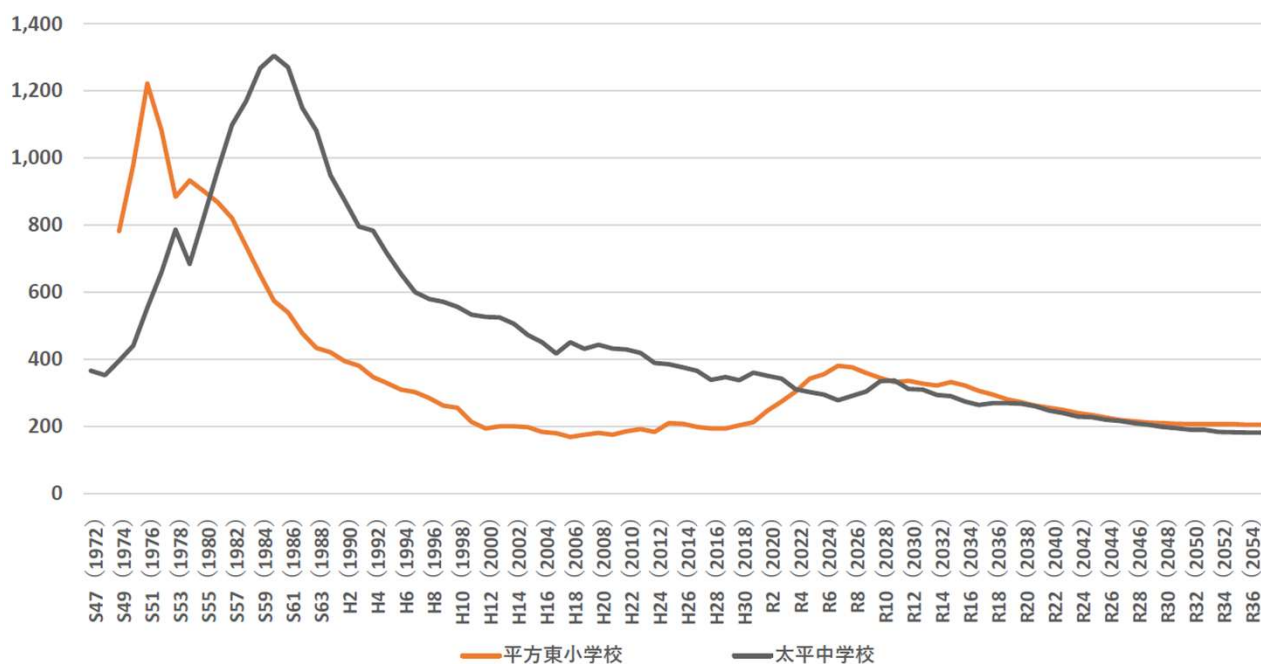
(3) 人口

上尾市では児童生徒が減少しており、高位、長期ビジョン、実態全てで、右肩下がりとなる推計になっています。太平中学校・平方東小学校の児童・生徒数は、今後緩やかに減少し、令和36年には両校あわせて、400人程度と見込まれます。

上尾市内児童・生徒数推計



平方東小学校・太平中学校の児童・生徒数の推移・推計



Ⅱ．現状と課題

2. 課題

(1) 隣接校との効率的・効果的な施設整備について

太平中学校と平方東小学校の敷地は隣接していますが、小・中学校の敷地境界にフェンスがあるため、校庭や施設の一体的な利用を行えず、土地の特性を十分に引き出せていないという状況です。このため、小・中学校が隣接するメリットを生かした敷地や校舎を一体化させた学校の整備を検討しています。

(図 【現状】、【配置計画 検討敷地】を参照)

小・中学校の敷地や校舎を一体化した施設整備により、職員室や事務室の共有化、校庭や体育館の相互利用をはじめ、利用頻度の少ない調理室や被服室等の効率的・効果的な利用が可能となるなど、小・中学校交流の一層の促進や児童生徒の学習効果の高まりが期待されます。なお、小中一体型の校舎における小・中学校間で共有する施設については、体格差や授業時間の違いなど、教育活動や学校生活の特性を考慮したゾーニングを図りつつ、検討を進めていきます。

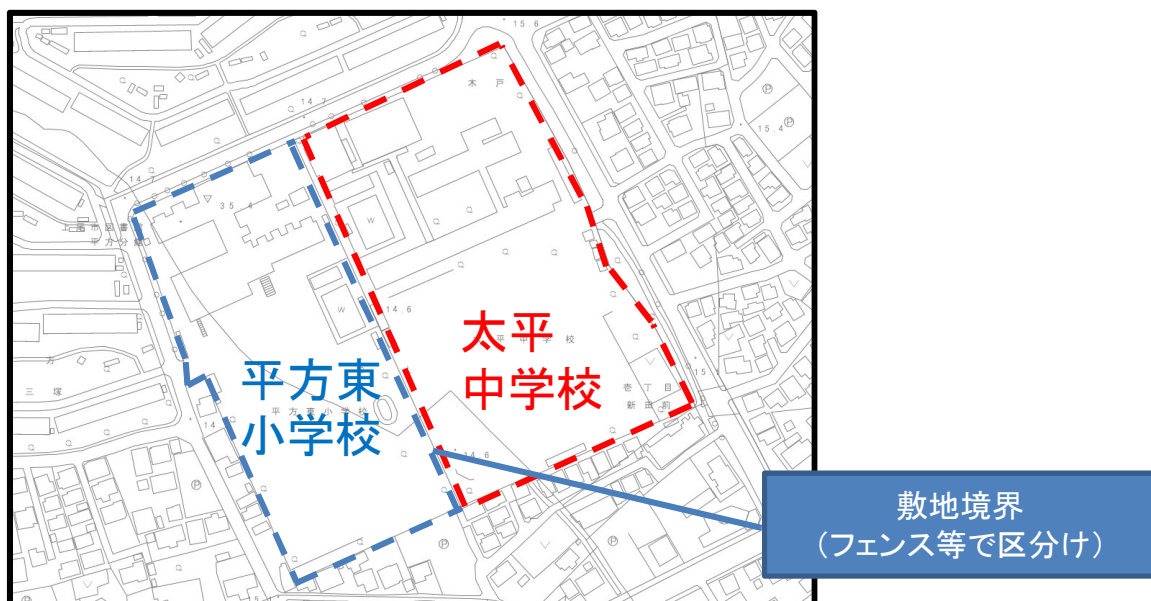


図 【現状】



図 【配置計画 検討敷地】

Ⅲ. 検討過程

1. 学校運営協議会

配置計画の作成にあたり、太平中学校学校運営協議会委員及び平方東小学校学校運営協議会委員の皆様と意見交換をさせていただきました。

以下に、太平中学校学校運営協議会、平方東小学校学校運営協議会での説明、意見交換スケジュールを示します。

開催スケジュール及び各回でいただいた主な意見

太平中学校

■一回目（令和7年3月21日実施）

頂いた主な意見

- ・施設共有化する際の問題点は何か
- ・学童保育施設をつくってほしい
- ・プールについて（屋内プールとするのか、地域開放とするのか）

■二回目（令和7年4月11日実施）

頂いた主な意見

- ・地域開放時のセキュリティ対策について（校舎の方へは出入りできないようにした方がよいのではないか）
- ・グラウンドを一体的に利用することについて（メリット、デメリット）

平方東小学校

■一回目（令和7年4月18日実施）

頂いた主な意見

- ・校門の数について（多ければセキュリティ対策が必要になる）
- ・南北方向の校舎の採光が少ないのではないか

2. アンケートの実施

生徒、児童、学校関係者、地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただきます。アンケートを2回実施いたしました。

（1）1回目アンケート（太平中学校・平方東小学校校舎等更新設計に係るアンケート）

【対象】生徒・児童、教職員、学校運営協議会委員、避難所運営班

【期間】令和7年1月21日～2月14日

【内容】生徒・児童：学校の好きな場所、新しい学校にあったらいいなと思うもの、新しい学校はどんな学校がよいかについて

教職員：各内部諸室の整備のポイントについて、小中施設の一体化について

学校運営協議会委員：今後の学校に求めるものについて、小中施設の一体化について

避難所運営班：避難所機能について

（2）2回目アンケート（太平中学校・平方東小学校校舎等更新設計配置計画案に関するアンケート（以下「配置計画アンケート」と称する））

【対象】教職員、生徒保護者、学校運営協議会委員、避難所運営班、開放委員会、平方地区自治会長、太平中学校・平方東小学校周辺にお住いの方

【期間】令和7年10月27日～12月3日

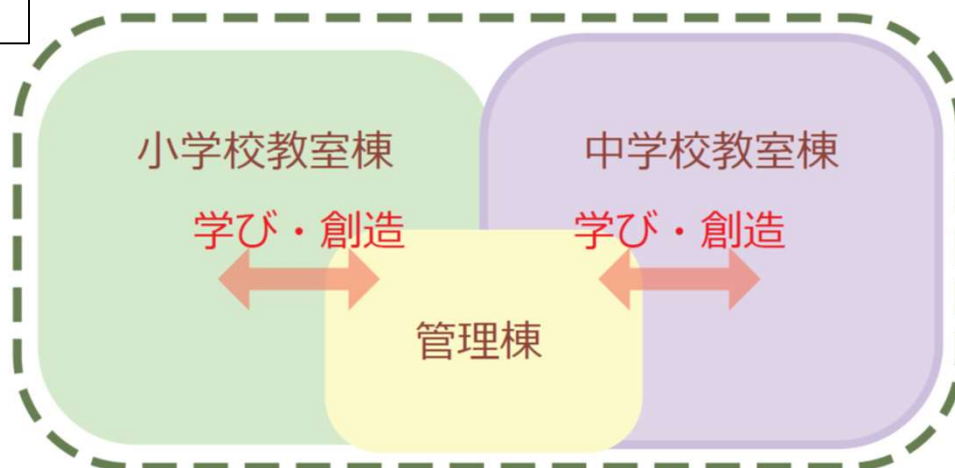
【内容】配置計画案の良い点、懸念点について

IV. 配置計画

1. 配置の特徴

管理棟を中心に小学校教室棟と中学校教室棟を配置した配置計画を行っています。これにより管理棟を共有スペースとし、小中学校の敷地の効率的な活用を目指します。また、小中学校間での連携がしやすくなり、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を促すことができます。

概念図



2. 配置計画

(1) 建物配置案の整理

学校敷地内における校舎や運動場の配置について、3つの配置案を想定し、比較検討を行いました。（「配置計画検討資料」を参照 P11～24）

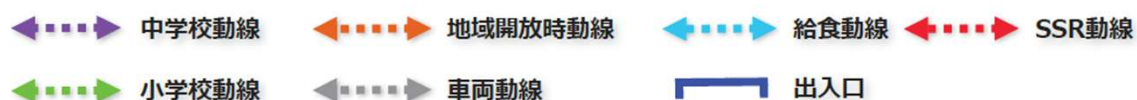
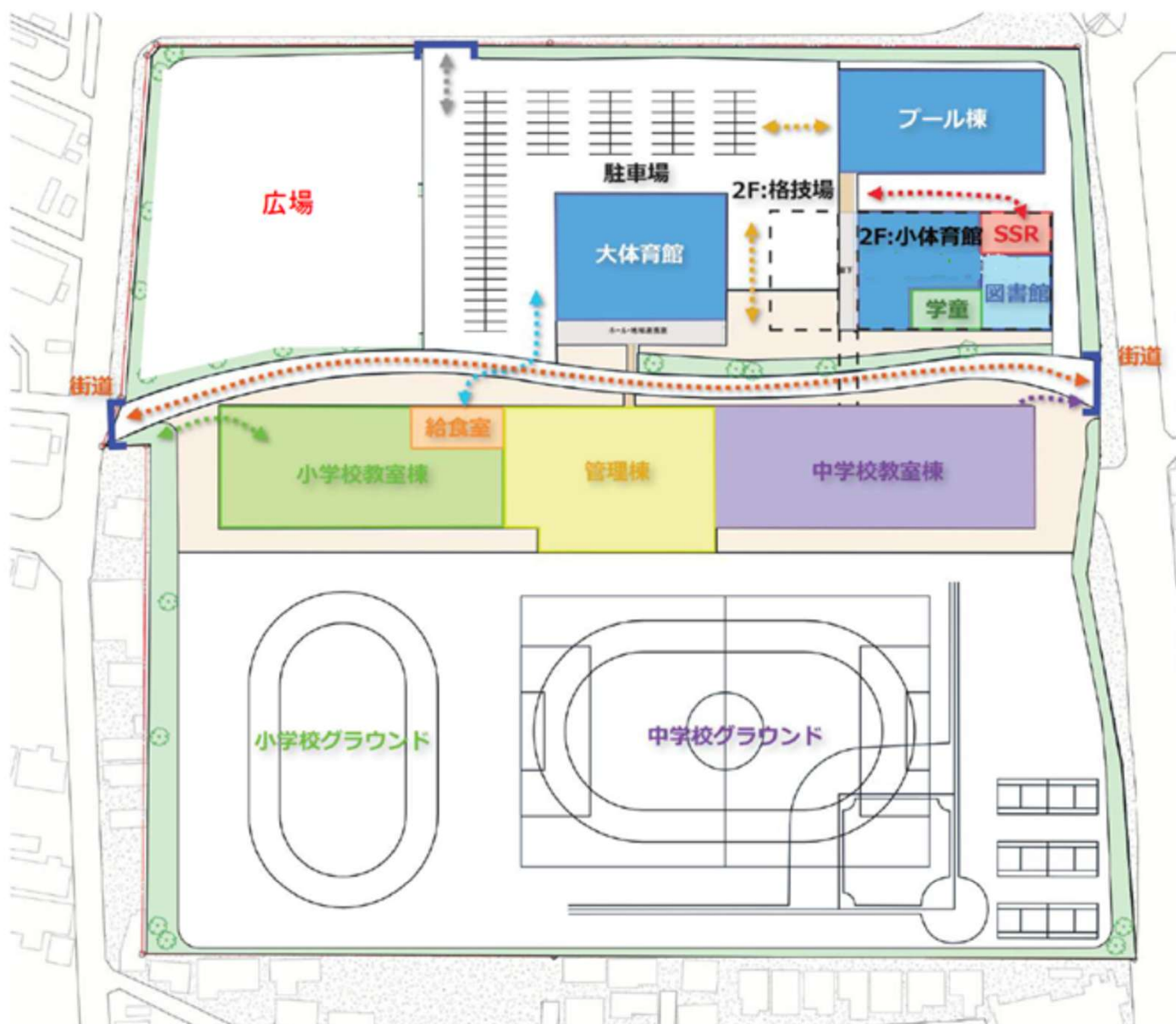
3つの配置案（A案、B案、C案）の特徴を整理し、検討に際しては大きく分けて「配置」、「環境」、「防災」、「工事中的環境、工事の効率性」「コスト」の5分類、38の項目について比較しながらメリット・デメリットを含めて検討を行いました。

IV . 配置計画

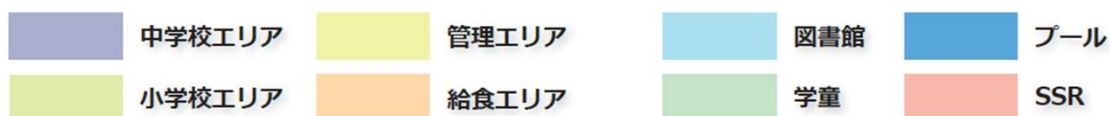
(2) 新校舎の配置計画

今回の計画にふさわしい配置案として、2回目アンケート（配置計画アンケート）で頂いた意見を取り入れ、最終的に B案を選定しました。

新校舎の配置は、東西方向に横長配置とし、人口増減等に合わせて柔軟な教室配置ができるようにします。また既存グラウンドは一体的に活用し、広い面積を確保し、災害時への活用も考慮します。



凡例



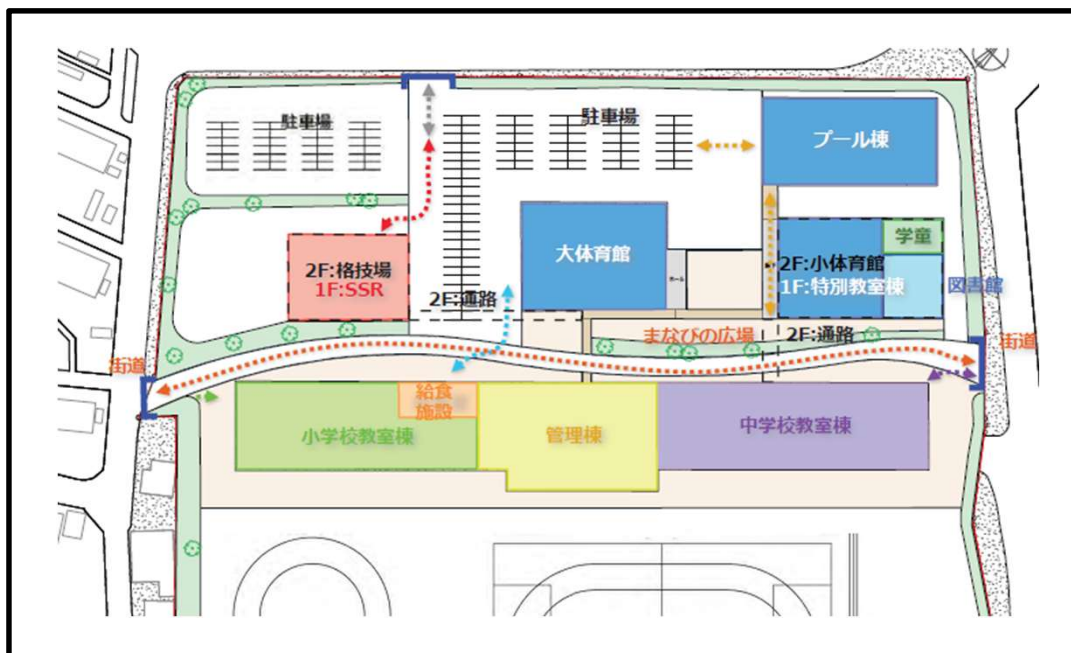
※小/中学校教室棟にはそれぞれ普通教室と特別教室を含む

※SSR（スペシャルサポートルーム）は学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる部屋のことで。

(3) 2回目アンケート（配置計画アンケート）時からの変更点

新校舎の配置計画にあたり、配置計画アンケートを踏まえ、B案に以下の修正を加えています。

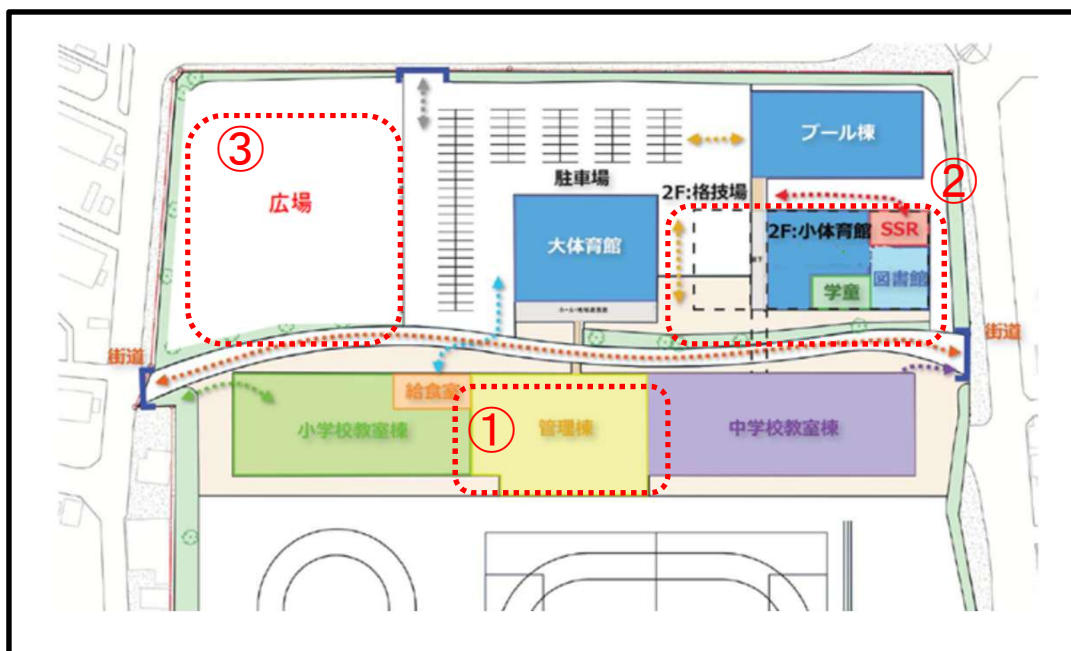
■修正前 B案（2回目アンケート（配置計画アンケート）時）



■修正後 B案 (配置計画アンケートを踏まえた修正)

○主な変更点

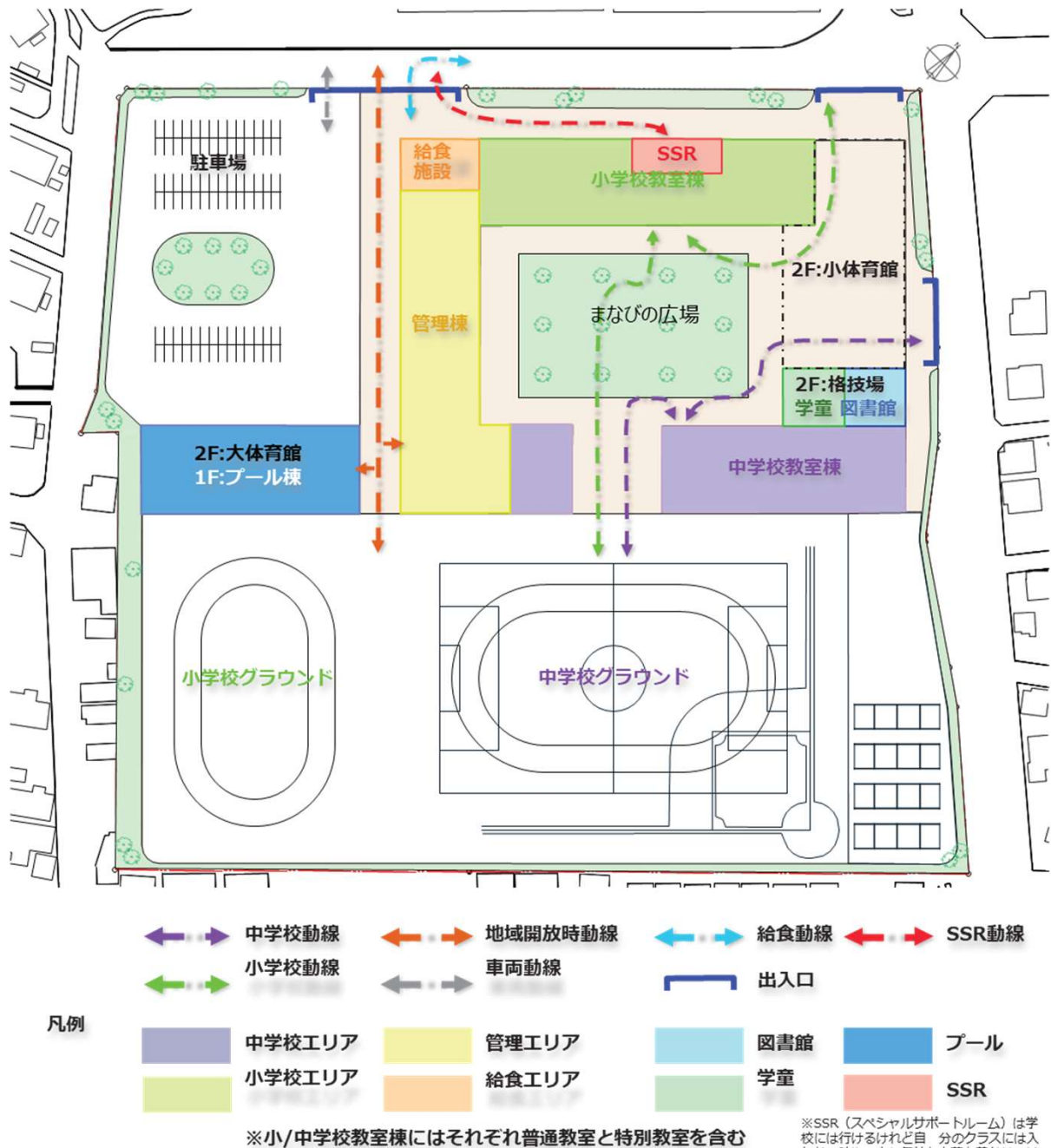
- ①管理棟の一部を4階建てとすることで、小体育館の下にあった特別教室を管理棟に組み込み、生徒児童の移動距離を短くしました。
- ②格技場、SSRを小体育館と同じ棟に建てます。
- ③格技場とSSRの移動の他、駐車場の一部も含めた空間（広場）を確保することで、主に小学生の利用を想定した広場と、中学校グラウンドを完全に分離した計画にしました。



IV. 配置計画

3. 配置計画検討資料

(1) A案 配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■ 計画の特徴

<良い点>

- ・建物に囲まれたまなびの広場を設置し、風の強い日などの天候の影響が少なく、休み時間に利用しやすい空間とすることで、小中学校の一体感が生まれる。
- ・小学校と中学校のゾーニング分けが明確。

<懸念点>

- ・既存中学校の校舎全体を囲うように新校舎を建設するため、施工面積が大きくなる。

■ 2回目アンケート（配置計画アンケート）より多かったご意見

A案良い点：学びの広場が良い。グラウンドが広く使える。屋内プールが良い。小中学校の一体感がある。

A案懸念点：小学校教室棟からグラウンド・体育館・プールが遠い
中学校棟の分断・管理等との距離。小中学校間の交流への不安

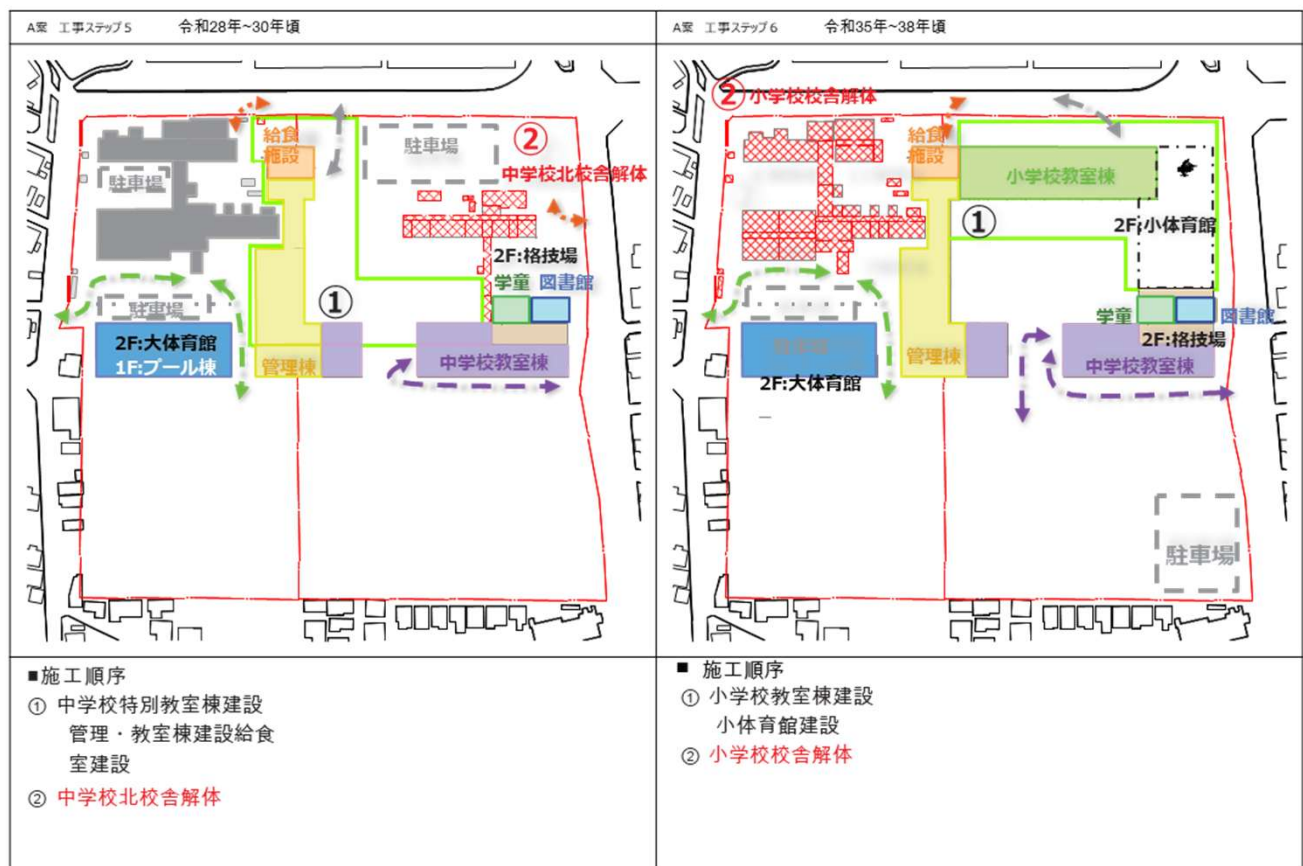
IV. 配置計画

(1) A案 工事ステップの概要 1～4

<p>A案 工事ステップ1 令和8年頃</p>	<p>A案 工事ステップ2 令和9年～11年頃</p>
<p>■施工順序</p> <p>① プール解体</p>	<p>■施工順序</p> <p>① 大体育館建設 プール棟建設</p> <p>② 屋内運動場解体</p>
<p>A案 工事ステップ3 令和14年～17年頃</p>	<p>A案 工事ステップ4 令和21年～23年頃</p>
<p>■施工順序</p> <p>① 中学校教室棟建設 管理・教室棟建設</p> <p>② 中学校南校舎解体</p>	<p>■施工順序</p> <p>① 格技場建設 図書館分館建設</p> <p>② 格技場解体</p>

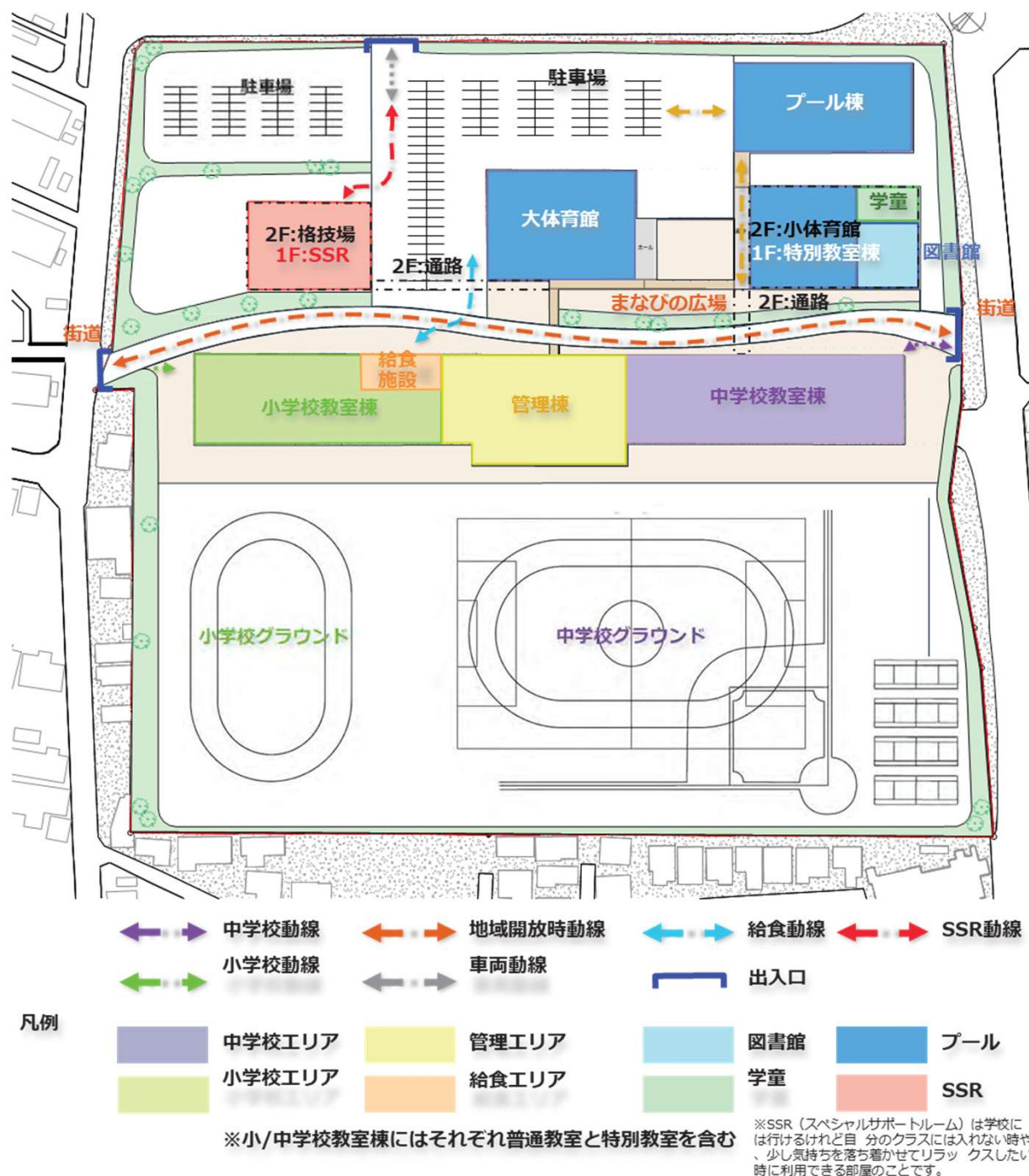
IV. 配置計画

(1) A案 工事ステップ5～6



IV. 配置計画

(2) B案 配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■計画の特徴

<良い点>

- ・児童、生徒数の増減に対して、柔軟な教室配置がしやすい。
- ・地域開放エリアのゾーニングが明確。

<懸念点>

- ・特別教室には渡り廊下を通過しなければいけない。
- ・ほかの案に比べ、小学校エリアから小体育館が遠い。

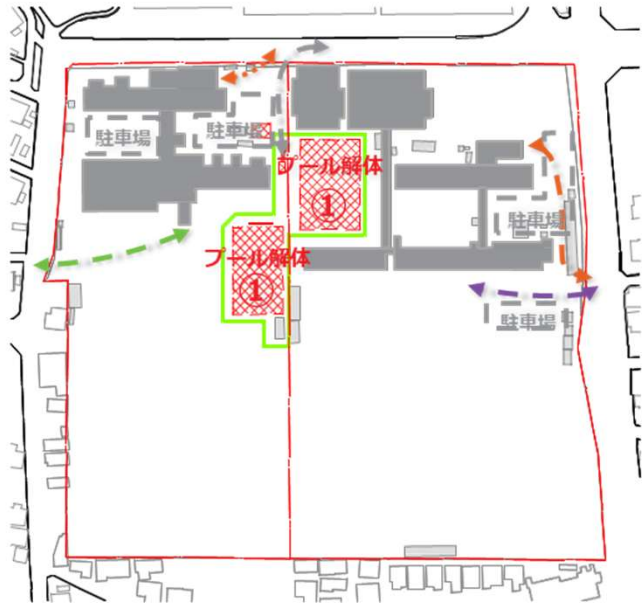
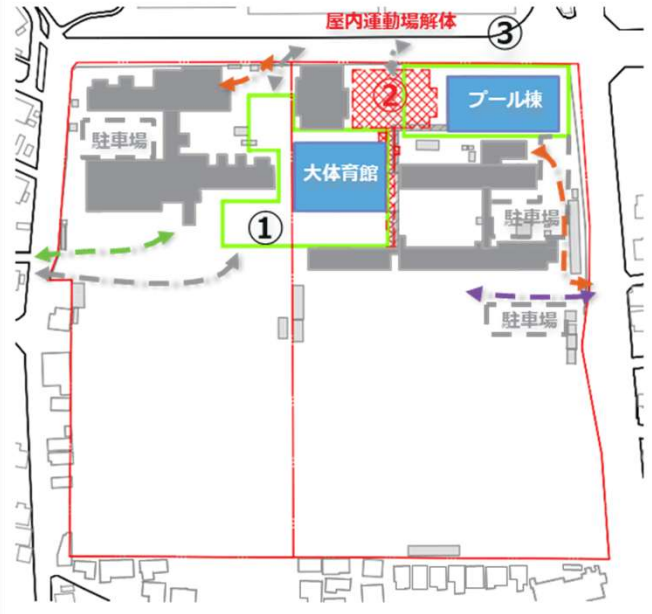

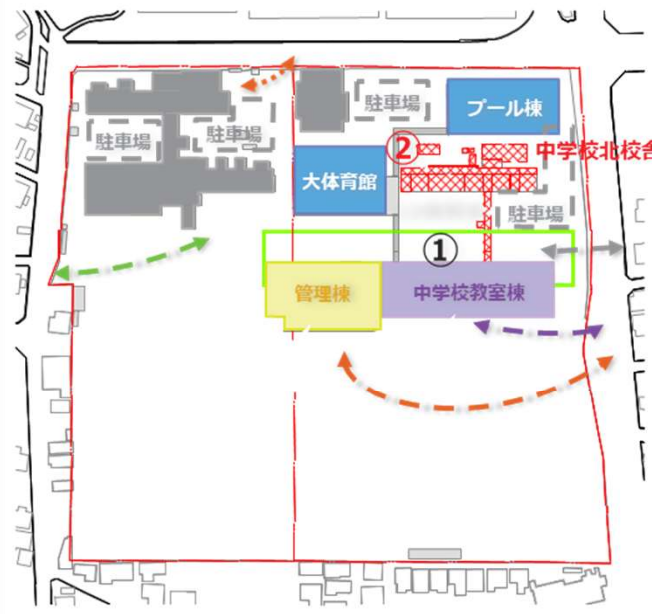
■2回目アンケート（配置計画アンケート）より多かったご意見

B案良い点：校舎配置がシンプル・スッキリしていて分かりやすい。
柔軟な教室配置が可能。小中のゾーニングが明確で動線が分かれている。体育館やプールにアクセスしやすい。

B案懸念点：小学校から体育館・プール・特別教室への距離が遠い
小体育館・格技場の位置が不適切。グラウンドの区切りがないことによる安全面の不安。

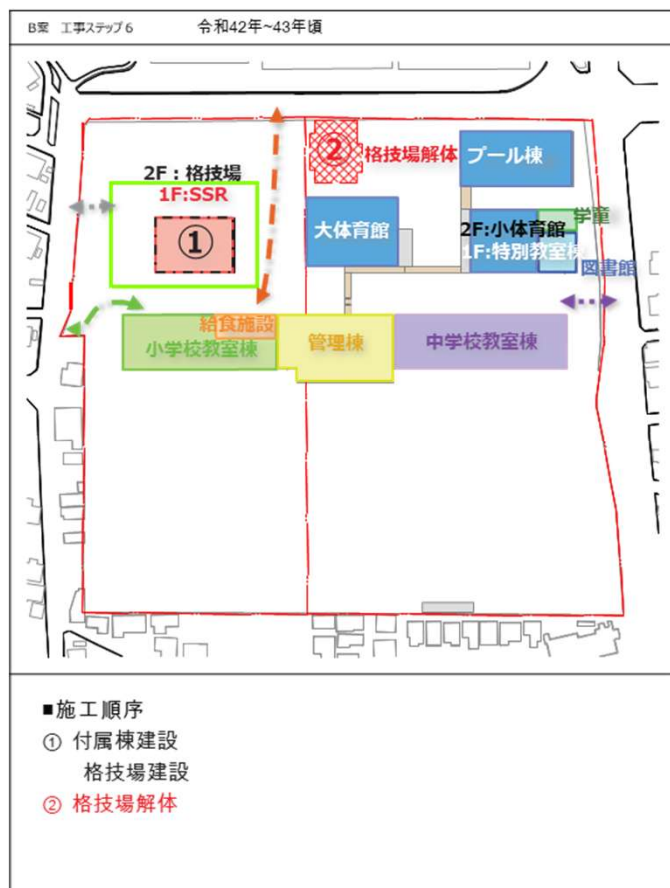
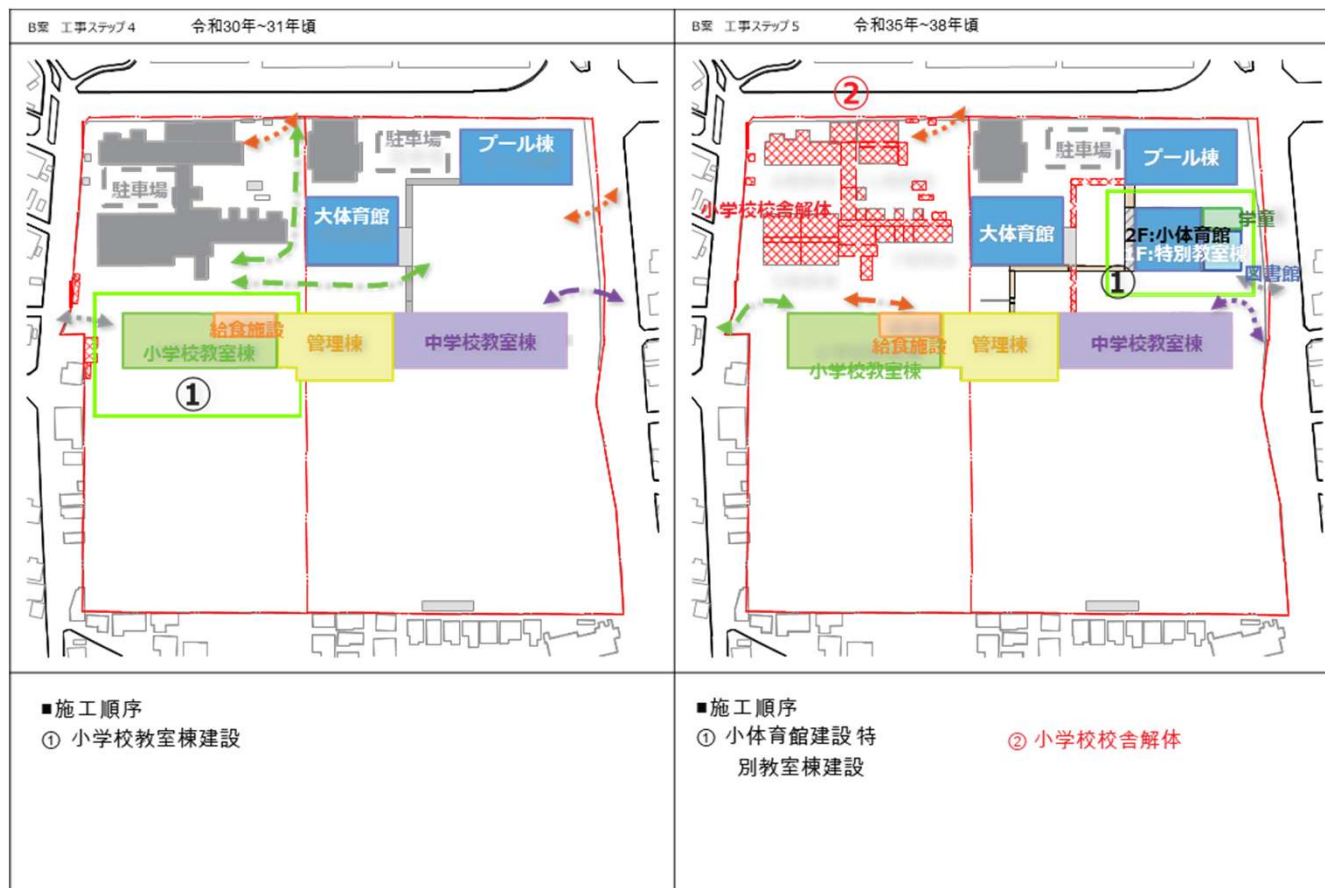
IV. 配置計画

(2) B案 工事ステップ1～3

<p>B案 工事ステップ1 令和8年頃</p>  <p>■施工順序 ① プール解体</p>	<p>B案 工事ステップ2 令和9～11年頃</p>  <p>■施工順序 ① 大体育館建設 ② 屋内運動場解体 ③ プール棟建設</p>
<p>B案 工事ステップ3 令和14～16年頃</p>  <p>■施工順序 ① 管理・教室棟建設 中学校教室棟建設 ② 中学校南校舎解体</p>	<p>B案 工事ステップ3-2 令和28～29年頃</p>  <p>■施工順序 ① 特別教室棟建設 ② 中学校北校舎解体</p>

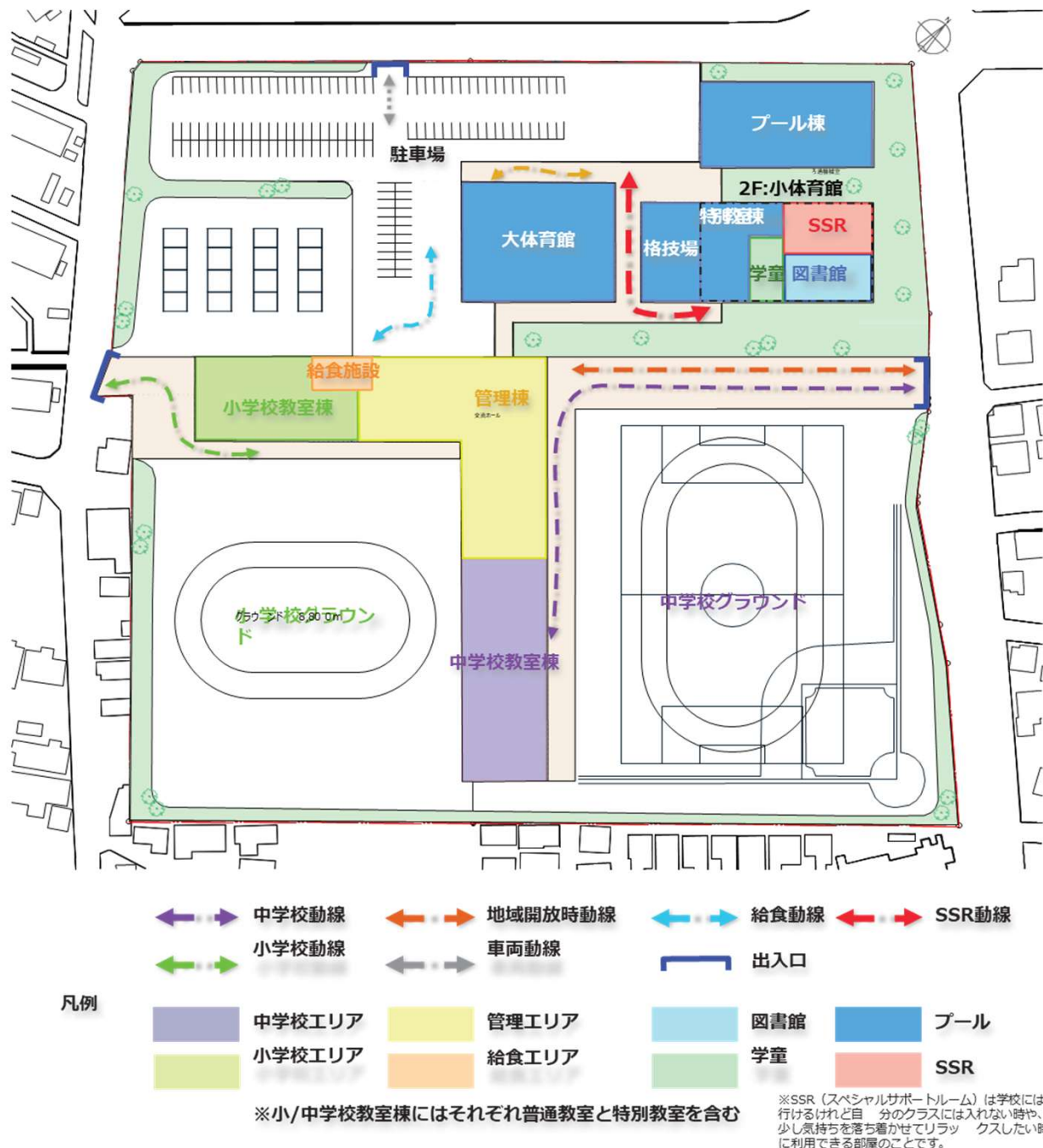
IV. 配置計画

(2) B案 工事ステップ4～6



IV. 配置計画

(3) C案 配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■計画の特徴

<良い点>

- ・グラウンドを建物でエリア分けすることができる。
- ・一部校舎を4階建てにすることで敷地内に広い空間が取れ、将来の拡張性が他の案に比べて大きい。

<懸念点>

- ・中学校普通教室は日射が半日のみとなる。
- ・グラウンドの一体的な利用ができない。




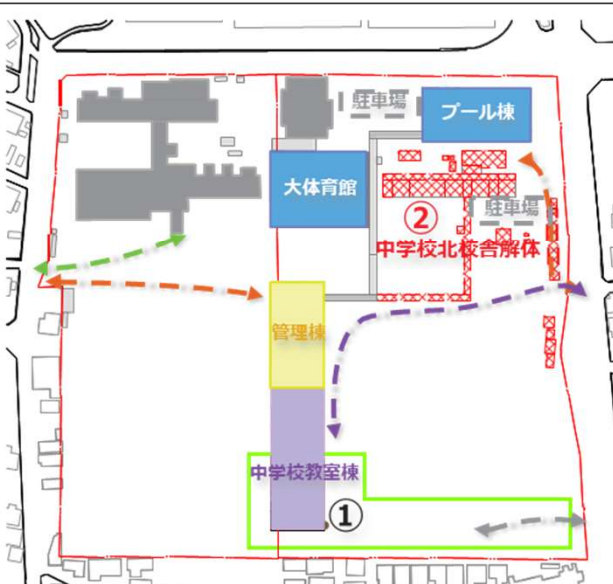
■2回目アンケート（配置計画アンケート）より多かったご意見

C案良い点：グラウンドの分離による安全性・活動の区別。
エリア分け・ゾーニングの明確さ。校舎以外の施設集中と管理・動線。

C案懸念点：グラウンドの分断と利用制限。施設・特別教室の遠さ。プールの防犯・環境に関する懸念。

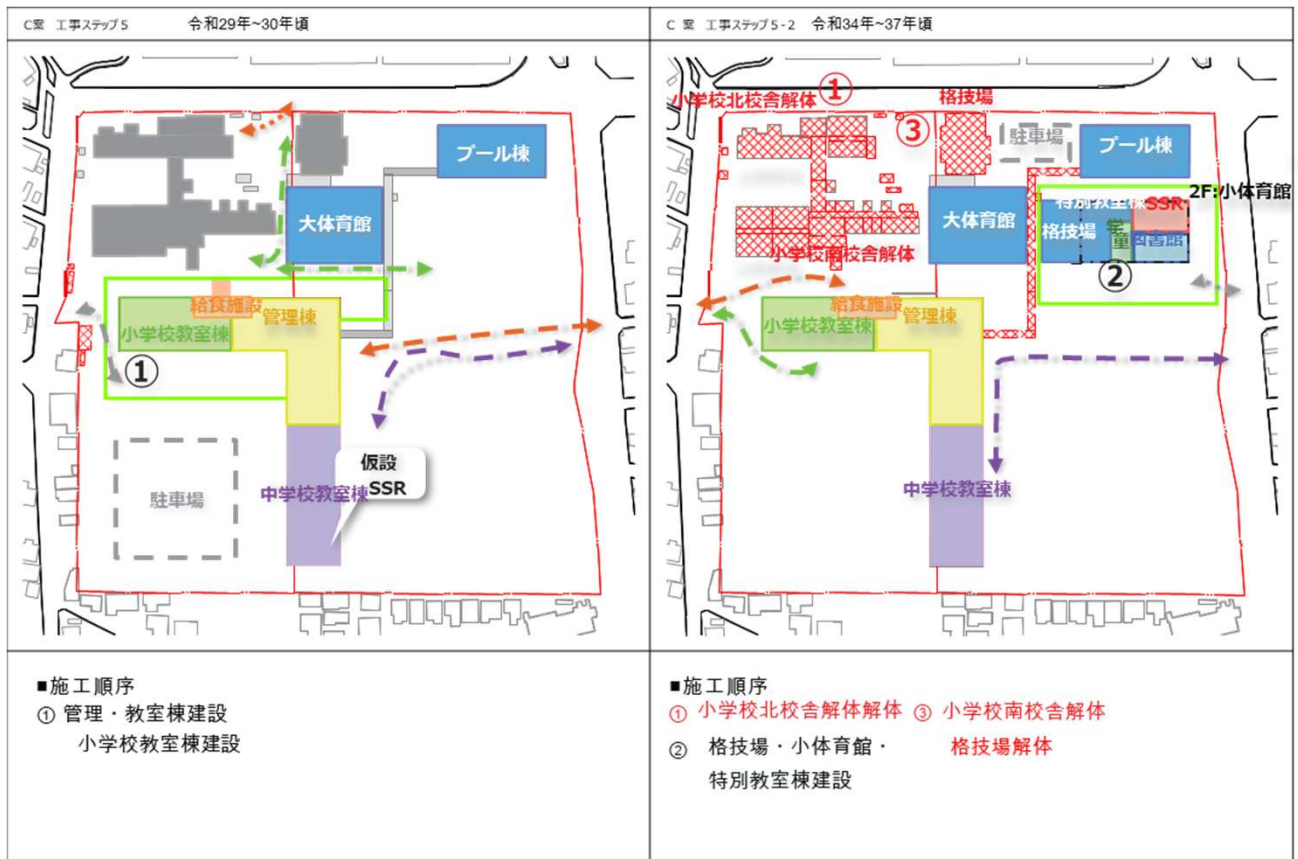
IV. 配置計画

(3) C案 工事ステップ1～4

<p>C案 工事ステップ1 令和8年頃</p>  <p>■施工順序 ① プール解体</p>	<p>C案 工事ステップ2カ 令和11年頃</p>  <p>■施工順序 ① 大体育館建設 ② 屋内運動場解体 ③ プール棟建設</p>
<p>C案 工事ステップ3 令和14年～17年頃</p>  <p>■施工順序 ① 管理・教室棟建設 中学校教室棟建設 ② 中学校南校舎解体</p>	<p>C案 工事ステップ4 令和22年～23年頃</p>  <p>■施工順序 ① 特別教室棟建設 ② 中学校北校舎解体</p>

IV. 配置計画

(3) C案 工事ステップ5



V. 2回目アンケート（配置計画アンケート）回答概要

1. アンケートの概要

1. 調査目的

太平中・平方東小学校校舎等更新設計における、配置計画案（3案）について各案のメリット、デメリットを把握するためにアンケート調査を実施する。

2. 対象者及び回答方法

	対象者数	回答数	回答率	回答方法
太平中・平方東小学校に勤務する教職員 （校長1・教頭1・教諭18、事務職員他2）平方東小 （校長1・教頭1・教諭23、事務職員他2）太平中	49	35	71.43%	Googleフォーム
太平中・平方東小学校に在籍する生徒の保護者 （世帯の重複を除く）	518	264	50.97%	Googleフォーム
太平中・平方東小学校学校運営協議会の方 （教員を除く14） 自治会などの重複を除いて10	10	8	80.00%	紙またはGoogleフォーム
太平中・平方東小学校避難所運営班の方 （教員を除く自主防災会7） 自治会などの重複を除いて3	3	1	33.33%	紙またはGoogleフォーム
太平中・平方東小学校学校開放委員会の方 （教員を除く22） 自治会長などの重複を除いて21	22	4	18.18%	紙またはGoogleフォーム
太平中・平方東小学校敷地から 100m以内に居住する方	426	48	11.27%	紙またはGoogleフォーム
自治会長	13	9	69.23%	紙またはGoogleフォーム
合計	1041	369	35.45%	

3. 調査期間

令和7年10月27日（月）から12月3日（水）

4. 設問

A案～C案についてそれぞれ良いところと懸念点を自由記述にて記載

V. 2回目アンケート（配置計画アンケート）回答概要

2. 回答概要

1. 各案の分析結果（良い点）

分類	回答数		
	A案	B案	C案
分かりやすい柔軟な配置	35	111	104
屋外施設機能が充実している	90	25	9
動線が良い	32	64	17
小中の一体感がある、交流がしやすい	58	16	6
校舎以外の施設がまとまっている	9	3	15
日当たりが良い	5	20	1
工事期間が短い/効率が良い	2	2	2
その他	39	36	14
合計	270	277	168

2. 各案の分析結果（懸念点）

分類	回答数		
	A案	B案	C案
施設配置に懸念がある	118	103	54
動線に懸念がある	18	46	52
屋外施設機能に懸念がある	31	17	60
小・中学生が交わることに懸念がある	43	16	3
日当たりが悪い	8	1	47
セキュリティ・防犯に懸念がある	13	31	10
小中の一体感がない	2	3	30
工事期間が長い/効率的ではない	12	5	2
その他	44	29	33
合計	289	251	291

3. 各案ごとの回答率

	良い点		懸念点	
	回答数	割合	回答数	割合
A案	270	48%	289	52%
B案	277	52%	251	48%
C案	168	37%	291	63%

4. 全案に対するその他意見

分類	回答数
安全に関すること	3
騒音に関すること	2
工期、予算に関すること	1
校舎配置について（提案）	1
子供への意見聴取	1
子供への影響	1


VI. 比較検討表

配置比較検討				A案 まなびの広場		
<div>凡例</div> <div><div><div>中学校動線</div><div>小学校動線</div><div>中学校エリア</div><div>小学校エリア</div></div><div><div>地域開放時動線</div><div>車両動線</div><div>管理エリア</div><div>給食エリア</div></div><div><div>給食動線</div><div>SSR動線</div><div>図書館</div><div>学室</div></div><div><div>出入口</div><div>プール</div><div>SSR</div></div></div> <div>※小/中学校教室棟にはそれぞれ普通教室と特別教室を含む</div>						
※評価は、 「◎=とてもよい」 「○=問題ない」 「△=懸念点や課題がある」とし、 加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」 を考慮した。						
評価分類	評価項目	評価	重要度	評価理由		
配置 (完了時)	建物の配置	大体育館～小学校校舎	○	A	大体育館は小学校エリアからやや遠い	
		大体育館～中学校校舎	○	A	大体育館は中学校エリアから近い。	
		大体育館～グラウンド	◎	B	大体育館はグラウンドと隣接しているため、グラウンドと連携した利用がしやすい。	
		大体育館～駐車場	◎	B	駐車場と隣接しているため地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。	
		小体育館～校舎	◎	A	小体育館は小中学校エリア共に近い。	
		小体育館～グラウンド	△	B	小体育館はグラウンドと隣接していないため、グラウンドと連携した利用がしにくい。	
		小体育館～駐車場	△	B	小体育館は駐車場と隣接していないため、地域利用での屋内運動や集会には使いにくい位置である。	
		小学校校舎～グラウンド	△	A	小学校グラウンドから小学校グラウンドまで遠い。	
		中学校校舎～グラウンド	◎	B	中学校校舎から中学校グラウンドまで近い。	
		中学校校舎～小学生屋外活動場所までの遠さ	○	A	中学校校舎から小学校校舎までは遠いがまなびの広場が近い。	
		普通教室の配置	◎	A	小中学校共、南に面する。	
		プール～小学校校舎	△	A	プールが小学校エリアから遠い。	
		プール～中学校校舎	○	B	プールが中学校エリアからやや遠い。	
	地域開放の明確性	○	B	階により開放エリアの範囲が異なる。		
	将来拡張性	○	B	将来建替時のスペースが他家と比べると狭い。		
	駐車場の配置		◎	B	北西側に設けることで、五差路の渋滞を考慮した配置となる。	
	動線	生徒の利用動線	◎	B	小中学校共、北東側のアプローチとなる。また、ロの字型の校舎とすることで広場を中心とした交流を創出する。	
		歩車分離	◎	A	給食搬入口が北側道路に面するので、安全性が高い。	
	屋内運動施設	大体育館の広さ	◎	A	大体育館は1階プールの2階アリーナの重層体育館となる。アリーナ面積1350㎡(バスケットボールフルコート(28×15m))	
		小体育館の広さ	◎	A	小体育館は校舎内2階となる。アリーナ面積1000㎡(バスケットボールコート(22×12m))	
屋外運動施設	グラウンドエリア分けの明確さ		◎	A	小中学校のグラウンドが一体となるほか、まなびの広場(4,500㎡)は遊具や植栽を配置でき、放課後の部活動と小学生の遊び場のエリア分けが明確。	
	中学校グラウンド広さ		○	B	中学校グラウンド10,000㎡	
	小学校グラウンド広さ		○	B	小学校グラウンド7,500㎡	
	サッカー・野球		○	B	現状と同規模	
	テニス		◎	B	グラウンドと一体的な配置となる。テニスコート4面	
環境 (完了時)	周辺環境への配慮	日影	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。	
		騒音	△	A	体育館が住宅に近接するため、騒音対策に配慮する。	
防災 (完了時)	地域防災の向上		◎	A	防災拠点となる地域連携室、体育館、調理室、防災倉庫が隣接するので、避難所の体育館と炊き出しをする調理室の連携が望ましい室内計画である。	
工事中の 環境 効率性	工事中の環境	学校機能の維持	○	A	校舎、グラウンド等とも、各機能を継続して使いながら建替えできる。	
		生徒の動線	△	B	中学校校舎建設時のグラウンドへの動線が狭い。	
	各工期の 懸念点・課題	大体育館建設時	△	B	小学校からグラウンドへのルートに安全面の配慮が必要。	
		大体育館完成時	○	B	大体育館は小学校からも中学校からも近い配置となる。	
		中学校校舎建設時	△	B	既存中学校校舎解体時に中学校北校舎棟の動線に安全面の配慮が必要。	
		中学校校舎完成時	△	B	仮設給食室への運搬車両と生徒動線が交差するため、安全面の配慮が必要。	
		管理教室棟建設時	△	B	工事スペースが小学校南校舎に近接。中学校校舎に増築するため、騒音対策が必要。	
		管理教室棟完成時	○	B	既存小学校校舎と新中学校校舎がつながるため、小中学校の交流を図ることが出来る。	
		小学校校舎建設時	○	B	問題なし。	
コスト	建設コスト(概算)		△	A	施工面積が大きいため、建設コストの増大が見込まれる。	
総 評			普通教室の長辺がすべて南面グラウンドや広場に面しており各教室の採光は十分に確保でき、敷地全体も見通せる計画である。 【評価内訳:◎…13 ○…14 △…11/合計38】			

VI. 比較検討表

配置比較検討				B案 街道の学び舎
<p> → 中学校動線 → 地域開放時動線 → 給食動線 → SSR動線 → 小学校動線 → 車両動線 → 出入口 凡例 中学校エリア 管理エリア 図書館 プール 小学校エリア 給食エリア 学童 SSR ※小/中学校教室棟にはそれぞれ普通教室と特別教室を含む </p>				
評価分類	評価項目	評価	重要度	評価理由
配置 (完了時)	建物の配置	大体育館～小学校校舎	◎	A 大体育館は小学校エリアから近い。
		大体育館～中学校校舎	◎	A 大体育館は中学校エリアから近い。
		大体育館～グラウンド	△	B グラウンドと隣接していないため、内外の運動施設としての連携は難しい。
		大体育館～駐車場	◎	B 駐車場と隣接しているため地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		小体育館～校舎	△	A 小体育館は小中学校エリア共に遠い。
		小体育館～グラウンド	△	B 小体育館はグラウンドと隣接していないため、グラウンドと連携した利用がしにくい。
		小体育館～駐車場	◎	B 小体育館は駐車場と隣接しているため地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		小学校校舎～グラウンド	◎	A 小学校校舎から小学校グラウンドまで近い。
		中学校校舎～グラウンド	◎	B 中学校校舎から中学校グラウンドまで近い。
		中学校校舎～小学生屋外活動場所までの遠さ	◎	A 中学校校舎から小学校グラウンドまで遠い。
		普通教室の配置	◎	A 小中学校共、南に面する。
		プール～小学校校舎	△	A プールが小学校エリアから遠い。
		プール～中学校校舎	△	B プールが中学校エリアから遠い。
		地域開放の明確性	◎	B 分棟のためゾーニングが明確。
配置 (完了時)	建物の配置	将来拡張性	◎	B 将来の建替時の配置がしやすい。
		駐車場の配置	◎	B 北西側に設けることで、五差路の渋滞を考慮した配置となる。
	動線	生徒の利用動線	◎	B 小学校は西側、中学校は東側のアプローチとなる。また、街道を模した東西動線を設けることで街の賑わいを創出する。
		歩車分離	△	A 給食搬入動線と地域開放時動線が重なる。
	屋内運動施設	大体育館の広さ	○	A 大体育館は1階であるが、アリーナが狭い。アリーナ面積1030㎡(バスケットボールフルコート(28×15m))
		小体育館の広さ	○	A 小体育館は校舎内2階となる。アリーナ面積920㎡(バスケットボールコート(22×12m))
	屋外運動施設	グラウンドエリア分けの明確さ	◎	A 小中学校のグラウンドが一体となるほか、広場は遊具や植栽を配置でき、放課後の部活動と小学生の遊び場のエリア分けが明確。
		中学校グラウンド広さ	○	B 中学校グラウンド10,000㎡
		小学校グラウンド広さ	○	B 小学校グラウンド7,500㎡
		サッカー・野球	○	B 現状と同規模
		テニス	◎	B グラウンドと一体的な配置となる。テニスコート4面
環境 (完了時)	周辺環境への配慮	日影	○	A 建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。
		騒音	○	A 体育館が住宅から離れているため問題なし。
防災 (完了時)	地域防災の向上		◎	A 防災拠点となる地域連携室、体育館、調理室が隣接とするので、避難所の体育館と炊き出しをする調理室の連携が望ましい室内計画である。
	学校機能の維持		△	A 中学校北校舎解体後は中学校の特別教室が不足するため、小学校の特別教室を利用する。
工事 中の 環境 ・ 効率性	工事中の環境	生徒の動線	△	B 中学校校舎建設時のグラウンドへの動線が狭い。
		大体育館建設時	△	B 工事車両の動線を3ルート設けるので、安全管理が難しい。
	各工期の懸念点・課題	大体育館完成時	○	B 大体育館は小学校からも中学校からも近い配置となる。
		中学校校舎建設時	△	B 既存校舎の南側に新校舎を建てるため、騒音対策が必要。
		中学校校舎完成時	△	B 仮設給食室への搬入車両と中学生動線が重なるため、安全面の配慮が必要。
		管理教室棟建設時	△	B 管理棟・中学校校舎に中学校特別教室を増築するため、騒音対策が必要。
		管理教室棟完成時	△	B 仮設給食室への搬入車両と中学生動線が重なるため、安全面の配慮が必要。
		小学校校舎建設時	△	B 小学校の動線を北門に変更。小学校校舎からグラウンドへの動線確保。
コスト	建設コスト(概算)		○	A 比較的施工面積が小さいため、建設コストは他案と比べると少ないと見込まれる。
	総評			<p>普通教室の長辺がすべて南面グラウンドに面しており各教室の採光は十分に確保でき、敷地全体も見通せる計画である。また、コンセプトにより他計画と比較すると地域とのつながりを強く感じることが出来る計画である。</p> <p>[評価内訳: ◎…15 ○…9 △…14/合計38]</p>

VI. 比較検討表

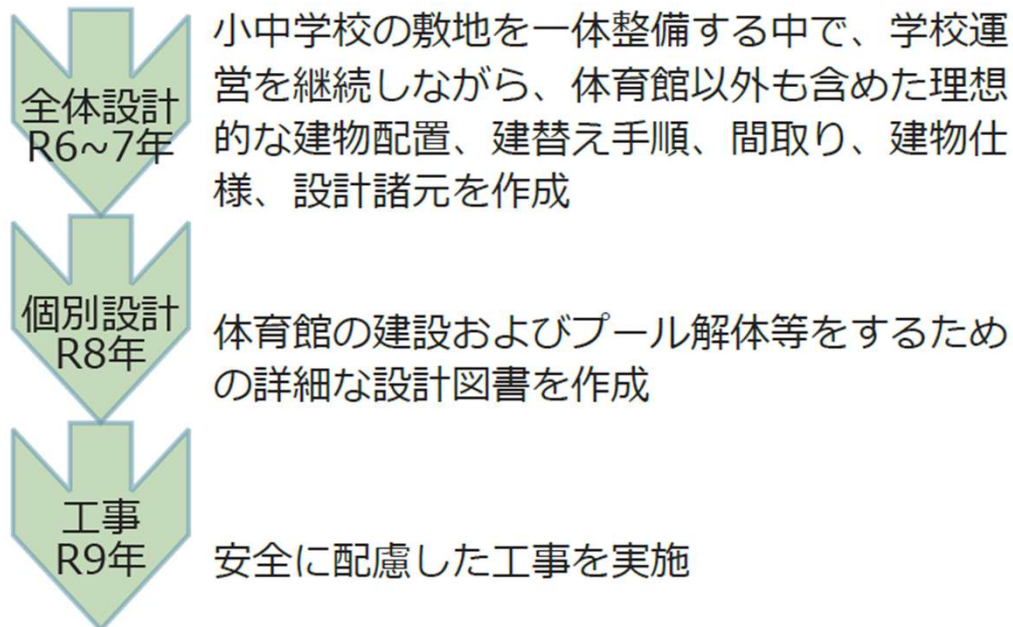
配置比較検討			C案(旧D案) 学びの架け橋		
<div>凡例</div> <div><div><div>中学校動線</div><div>地域開放時動線</div><div>給食動線</div><div>SSR動線</div><div>小学校動線</div><div>車両動線</div><div>出入口</div></div><div><div>中学校エリア</div><div>管理エリア</div><div>図書館</div><div>プール</div><div>小学校エリア</div><div>給食エリア</div><div>学童</div><div>SSR</div></div></div> <div>※小/中学校教室棟にはそれぞれ普通教室と特別教室を含む</div>					
※評価は、 「◎=とてもよい」 「○=問題ない」 「△=懸念点や課題がある」とし、 加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」 を考慮した。					
評価分類	評価項目		評価	重要度	評価理由
配置 (完了時)	建物の配置	大体育館～小学校校舎	◎	A	大体育館は小学校エリアから近い。
		大体育館～中学校校舎	◎	A	大体育館は中学校エリアから近い。
		大体育館～グラウンド	△	B	グラウンドと隣接していないため、内外の運動施設としての連携は難しい。
		大体育館～駐車場	◎	B	駐車場と隣接しているため地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		小体育館～校舎	△	A	小体育館は小中学校エリア共に遠い。
		小体育館～グラウンド	△	B	小体育館はグラウンドと隣接していないため、グラウンドと連携した利用がしにくい。
		小体育館～駐車場	◎	B	小体育館は駐車場と隣接しているため地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		小学校校舎～グラウンド	◎	A	小学校校舎から小学校グラウンドまで近い。
		中学校校舎～グラウンド	◎	B	中学校校舎から中学校グラウンドまで近い。
		中学校校舎～小学生屋外活動場所までの遠さ	△	A	中学校校舎から小学校グラウンドまで近い。
		普通教室の配置	△	A	小学校は南に面するが、中学校は東に面する。
		プール～小学校校舎	△	A	プールが小学校エリアから遠い。
		プール～中学校校舎	△	B	プールが中学校エリアから遠い。
	地域開放の明確性	◎	B	建て替え順序の影響でエレベーターとエリアが分かれるが、ゾーニングは明確	
	将来拡張性	◎	B	将来の建替時の配置がしやすい。	
	駐車場の配置		◎	B	北西側に設けることで、五差路の渋滞を考慮した配置となる。
動線	生徒の利用動線	○	B	小学校は西側、中学校は東側のアプローチとなる。	
	歩車分離	◎	A	給食搬入口が駐車場に面するため、他の動線と交わらない。	
屋内運動施設	大体育館の広さ	○	A	大体育館は1階であるが、アリーナが狭い。アリーナ面積1270㎡(バスケットボールコート(28×15m))	
	小体育館の広さ	○	A	小体育館は校舎内2階となる。アリーナ面積950㎡(バスケットボールコート(22×12m))	
屋外運動施設	グラウンドエリア分けの明確さ	◎	A	校舎で分割することで、放課後の部活動と小学生の遊び場のエリア分けが明確となる。	
	中学校グラウンド広さ	○	B	中学校グラウンド11,000㎡	
	小学校グラウンド広さ	◎	B	小学校グラウンド8,800㎡	
	サッカー・野球	○	B	現状と同規模	
	テニス	△	B	グラウンドから離れた北側の配置となる。テニスコート4面	
環境 (完了時)	周辺環境への配慮	日影	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。
		騒音	○	A	体育館が住宅から離れているため問題なし。
防災 (完了時)	地域防災の向上		△	A	防災拠点となる地域連携室、体育館が隣接とするが、炊き出しをする調理室が離れている。
工事 中の 環境 ・ 効率性	工事中の環境	学校機能の維持	○	A	校舎、グラウンド等とも、各機能を継続して使いながら建替えていく。
		生徒の動線	△	B	新中学校校舎から既存中学校北校舎への動線が長い。
	各工期の 懸念点 課題	大体育館建設時	△	B	工事車両の動線を3ルート設けるので、安全管理が難しい。
		大体育館完成時	○	B	大体育館は小学校からも中学校からも近い配置となる。
		中学校校舎建設時	△	B	中学校グラウンド面積減少。小学校グラウンドの利用も検討する必要がある。
		中学校校舎完成時	△	B	仮設給食室への搬入車両と小学生動線が重なるため、安全面の配慮が必要。
		管理教室棟建設時	△	B	中学校グラウンド面積減少。小学校グラウンドの利用も検討する必要がある。
		管理教室棟完成時	△	B	仮設給食室への搬入車両と小学生動線が重なるため、安全面の配慮が必要。
小学校校舎建設時	△	B	小学校校舎からグラウンドへの動線確保。		
コスト	建設コスト(概算)		△	A	施工面積が大きいため、建設コストの増大が見込まれる。
総 評			中学校の普通教室は午前中は太陽光が入るが、午後は入らない。一方で、一貫校としての一体感残しつつ、他計画と比較すると明瞭なゾーニング計画となっている。 【評価内訳: ◎…12 ○…9 △…17/合計38】		

VII. 事業スケジュール

1. 整備スケジュール

「IV配置計画（2）B案工事ステップ」1～3及び4～6の通り、大体育館（屋内運動場）の建替等から着手します。

新体育館の完成までの流れは次の通りとなります。



※新築工事の期間は現時点での概算であり、今後の詳細検討により前後する場合があります。

上尾市教育委員会

令和 8 年 月